

2012 年におけるアジア・欧州間コンテナ荷動きの動向について

掲載誌・掲載年月：荷主と輸送 1302

日本海事センター企画研究部

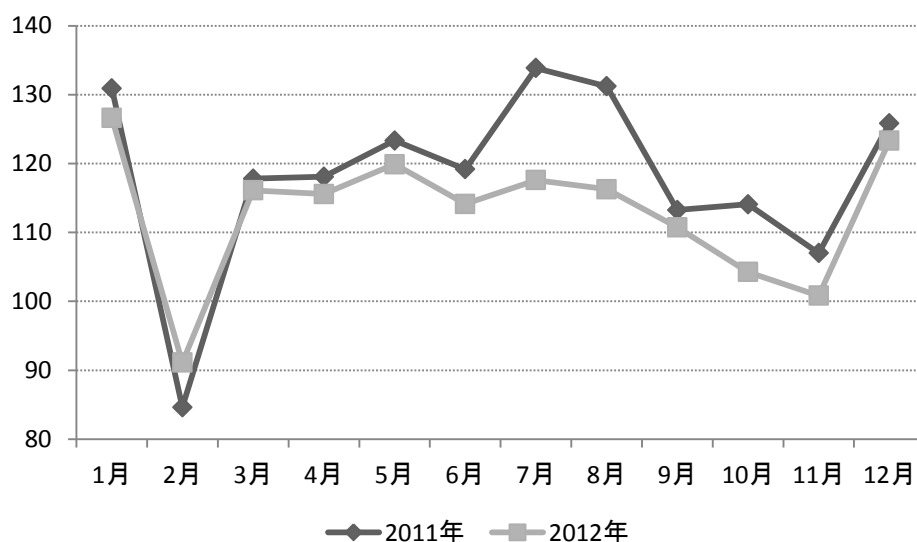
研究員 松田 琢磨

はじめに

(公財) 日本海事センターでは英 CTS (コンテナトレーズスタティスティックス) 社が発表を行っているアジア・欧州間コンテナ航路 (欧州航路) のコンテナ荷動き量のデータを毎月発表している。今回の記事では、2012 年の欧州航路の荷動き動向を、欧州委員会の公式統計 (Eurostat) など補完的なデータも交えつつ振り返っていくこととしたい。

2012 年の欧州往航荷動き

2012 年のアジア積欧州揚コンテナ貨物 (欧州往航) の荷動き量は前年比 4.4%減の 1,356 万 TEU であった。月別に見ても 2 月は前年を上回ったが、3 月以降は前年を下回る月が続いた (図 1 参照)。とくに 7 月、8 月は前年同月比で 10%を超える減少となるなど荷動きの不調が続き、9 月以降も荷動きが大きく回復することはなかった。



データ出所：CTS より (公財) 日本海事センター作成

図 1：アジア積み欧州揚げコンテナ航路 (欧州往航) のコンテナ荷動き量推移 (2011 年 1 月～2012 年 12 月、単位：10,000TEU)

荷動きの減少に大きくかかわっているのが欧州の経済動向である。現在の欧州経済の